

令和3年度第1回石垣市観光開発審議会

議事要旨

日 時	令和3年9月2日(木) 13時30分～15時30分
場 所	石垣市民会館中ホール
出席者	<p>中山 義隆 石垣市長</p> <p>親盛 一功 会長(石垣市観光交流協会 副会長)</p> <p>越智 正樹 委員(琉球大学 国際地域創造学部 教授)</p> <p>黒島 一博 委員(石垣市観光交流協会 副会長)</p> <p>請盛 真実 委員(石垣市観光交流協会 青年部長)</p> <p>松原 一代 委員(石垣市観光交流協会 理事)</p> <p>浦内 克雄 委員(石垣市民憲章推進協議会 会長)</p> <p>江川 義久 委員(石垣市文化協会 会長)</p> <p>大瀨 達也 委員(石垣市商工会 会長)</p> <p>赤城 陽子 委員(石垣市商工会観光部会 部会長)</p> <p>川平 孝子 委員(石垣市婦人連合会 会長)</p> <p>浦崎 美紀子 委員(八重山「女性の翼」の会 会長)</p> <p>国仲 恵亮 委員(八重山青年会議所 理事長)</p> <p>前村 司 委員(沖縄振興開発金融公庫八重山支店 支店長)</p> <p>山本 以智人 委員(環境省石垣自然保護官事務所 上席自然保護官)</p> <p>小切間 元樹 委員(石垣市企画部 部長)</p>
事務局	<p>玻座真、前盛、向井、下地(観光文化課)</p> <p>高牧、宇治田、井芹、角田、宮城(ランドブレイン株式会社)</p>
欠席者	なし

<会次第>

1 開会

2 委嘱状交付

3 市長あいさつ

4 委員紹介

5 会長・副会長の選出

6 議事

(1) 諮問

(2) 関係資料説明

(ア)第2次石垣市観光基本計画について

i.石垣市観光の現状

ii.現行計画のあらすじと具体的施策の達成状況

iii.第2次観光基本計画策定の手法・体制・スケジュール

(イ)石垣市観光危機管理計画について

i.県内等における観光危機管理計画策定状況

ii.主要都市における観光危機管理計画の紹介

iii.石垣市観光危機管理計画策定の手法・体制・スケジュール

(3) 意見交換

7 その他

(1) 次回開催予定

8 閉会

<配布資料>

- ・資料1：石垣市観光の現状
- ・資料2：現行計画のあらすじと具体的施策の達成状況
- ・資料3：第2次観光基本計画策定の手法・体制
- ・資料4：石垣市観光危機管理計画について
- ・資料5：第2次石垣市観光基本計画・石垣市観光危機管理計画 策定スケジュール

○議事内容

・第2次石垣市観光基本計画・石垣市観光危機管理計画(仮称)策定に係り、上記の次第に基づいて第1回石垣市観光開発審議会を行った。

【以下、発言要旨】

事務局 (前盛)	・開会を含め、会長選出、諮問までは事務局にて実施
中山市長	<p>みなさまこんにちは。本日はお忙しい中、石垣市観光開発審議会にご出席いただきましてありがとうございます。また、本審議会への委員承諾依頼についても快く引き受けていただきまして、大変ありがとうございます。</p> <p>みなさまもご存じの通り、昨年から新型コロナウイルス感染拡大のため、厳しい状況が続いております。石垣市、八重山においては新石垣空港開港やクルーズ寄港回数増加のため、入域観光客数は149万人を数えるなど非常に好調な推移をしておりましたが、コロナの影響などもあり昨年度以降は「激減」となっております。それに対して、地域のみなさま方、観光業を中心とした経済関係のみなさま方にも色々とお力添えをいただいております。感染拡大に取り組みつつ、経済状況回復を目指しているところではありますが、依然として厳しい状況が続いております。ワクチン接種率はみなさまのお力添えをいただいたおかげで、全人口の約7割となっております。他の地域と比較するとワクチン接種率は非常に高くなっておりまして、いずれ効果を現し収束に向かうものと期待しております。ぜひ、今後ともお力添えのほどよろしくお願いいたします。</p> <p>さて、本審議会ですが、本市の観光に関する基本的な計画の策定及びその推進について調査、審議をするため、地方自治法に基づき本市の附属機関として設置しております。本市の観光施策につきましては、石垣市観光基本計画に基づき、実施をしております。当計画は新石垣空港の開港などを含め、平成22年に10年間の計画として策定されました。その後、平成27年度には情勢の変化に対応するために一部改訂がなされ、昨年度で一旦終了という形となっております。新型コロナウイルス感染症の蔓延により、集まることが厳しい状況ではありますが、感染対策のご協力をいただきながら第2次計画の策定にご協力いただきたいと思います。また、安心安全な観光地として、観光危機に対応する石垣市観光危機管理計画(仮称)についても今年度に策定したいと考えております。審議会委員のみなさまにはそれぞれの御立場から忌憚ないご意見をいただき、両計画の策定に関してご尽力いただきますようよろしくお願いいたします。審議会委員の任期につきましては、2年間となりみなさま大変お忙しい中にご負担もあるとは思いますが、石垣市のリーディング産業である観光産業の持続的発展のためにもご尽力いただきますようお願い申しあげましてあいさつとさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。</p>
事務局 (前盛)	・互選により会長は親盛一功様(石垣市観光交流協会 副会長)、副会長は小切間元樹(石垣市企画部 部長)に決定
親盛会長	<p>みなさまこんにちは。今日は大変お忙しいところありがとうございます。先ほど石垣市観光開発審議会会長として拝命いたしました。先輩方がたくさんいらっしゃる中で、多々足りないところがありますが、みなさまと一緒に進めていきたいと思っております。よろしくお願いいたします。</p> <p>平成29年の入域観光客数は130万人を突破し、これから150万人を目指して右肩上がりで推移してきましたが、2年前より新型コロナウイルスの影響で入域観光客数は減少し続けています。これから9月、10月、11月と非常に厳しい状況でありますけれど、今会議では多方面から意見をいただければと思います。よろしくお願いいたします。それ</p>

では、会を進めていきたいと思います。

親盛会長 それでは、改めてよろしく願いいたします。限られた時間内で、円滑な審議会運営に努めていきますので、みなさまのご協力をお願いいたします。

最初に審議会の公開についてお諮りいたします。事務局から考え方はありますか。

事務局 (前盛) この審議会は、本市のリーディング産業である観光に係る計画の素案を審議する場になりますので、広く市民に知ってもらうためにマスコミ、傍聴希望者には公開することが望ましいと考えております。また、議事録や配布資料につきましても、その都度、公表が望ましいと考えております。以上です。

親盛会長 審議会の公開について、マスコミ、傍聴者にも公開することとし、また、議事録についても各委員の確認を経たうえで、その都度、公表するというところでよろしいですか。

一同 拍手

親盛会長 はじめに資料の確認を事務局よりお願いします。

事務局 (前盛) ・配布資料の確認を行った。

事務局 (玻座真) ・次第に沿って、資料5、資料1、資料2、資料3、資料4の順番で説明をした。

～以下、資料説明に対する質疑応答～

委員 石垣市観光プラットフォーム会議の議事録を拝見したが、非常に面白い意見が掲載されていた。過去に実施していたプラットフォーム会議は単年度開催で無くなってしまったのだろうか。今回開催される観光開発審議会とプラットフォーム会議の関係性を教えてほしい。

事務局 (玻座真) 石垣市観光プラットフォーム会議は常設の会議ではなく、石垣市観光アドバイザーである谷口様に基調講演をいただいたり、行政と関係機関、観光事業者が集まりパネルディスカッションなどを開催する際の催しの呼称として会議を開催した経緯があります。観光関係者が集まり、継続的に観光施策を話し合うことが望ましいことと考えていますが、これまでは単発での開催であった。今年度も開催等を含めて検討したが、今回はよりさらに幅広い方々からの意見を観光施策に反映していければと考えている。その他の時間的、物理的制約を考慮して、「資料3：第2次観光基本計画策定の手法・体制」に示されている体制にて検討を重ねたい。

委員 検討の方針について理解した。観光関連事業者、市民、観光客から意見を聞くのは重要だと思う。今回、第2次石垣市観光基本計画と石垣市観光危機管理計画(仮称)を策定するにあたり、本審議会と両計画の検討会の合計3つの会議体にてそれぞれ議論した内容を共有するコミュニケーションの場が必要になるかと思う。例えば、審議会での要望をそれぞれの検討会に投げかけることにより、意見交換が行われる方法。また、要望として観光基本計画と観光危機管理それぞれの検討会での議論を共有する場を設けてはどうだろうか。

委員 以前は観光交流協会という立場で参加させていただいた。何年か前に審議会の名称に含まれる「開発」というフレーズではなく、「振興」に変更してはといったことが議論にあがっていたが、今後も「観光開発審議会」という名称のまま進めていくのか。

事務局 (玻座真)	<p>「開発」という名称に関する議論があったことは承知している。本審議会は石垣市が地方自治法に基づいて附属機関を定める条例に基づいて設置されており、名称を変更する場合は条例改正が必要になる。今日開会した9月議会には間に合わなかったが、出来るだけ早いタイミングで変更に向けて取り組む。</p>
委員	<p>石垣島はこの度世界自然遺産に登録された西表島への玄関である。その視点を計画に盛り込んでいただきたい。</p>
委員	<p>観光振興は新たな魅力づくりも重要だが、八重山の今まで守ってきた自然環境や文化などの魅力を失わないことも重要。そのような視点を次の観光基本計画の中に盛り込んでいただきたい。また、以下の2つの視点も入れていただきたい。</p> <p>1 つは、西表島が世界自然遺産に登録されたことで、自然体験などに興味がある欧米などからの観光客数が増加し、長期滞在や自然環境を利用した観光の需要が高まると考えられる。世界自然遺産の入り口としての石垣島という視点が重要である。</p> <p>同じく資料1「(3)地球温暖化が与える影響」に記載があるように輸送機関や観光事業者の二酸化炭素排出量削減も課題だが、地球温暖化は観光地の環境そのものを変化させてしまう。UNESCO(国連教育科学文化機関)は、2030年には世界のサンゴ礁の9割が危機に瀕すると発表している。これにより、今までの観光スタイルが変化することも予想される。また、台風がより強力になる可能性があるなど、危機管理計画にも直結することである。地球温暖化への適応に関する視点を両計画に盛り込んでほしい。</p>
事務局 (玻座真)	<p>多くの人を惹きつけている自然環境や景観資源など保全すべきことがらや内容については現行計画に既に記載されており、そのような資源が本市の観光地としての魅力の源泉となっていることを認識している。</p> <p>また、西表島の世界自然遺産登録を踏まえた関係性も大事で、連携が必要であると認識しており、第2次石垣市観光基本計画素案検討会では竹富町の世界遺産推進室長を委員として参加いただくように調整を進めている。</p>
委員	<p>インバウンドに関する意見をいただきたい。来年3月には改修中の国際線ターミナルが完成するが、現時点では香港エクスプレスの便がない状況である。今後のインバウンド対応、対策に関してどのように考えているのか。</p>
事務局 (玻座真)	<p>インバウンド対策はお互い地域での受入環境づくり、体制づくりが大切であり、石垣市だけではうまくいかない。ワクチン接種の進捗が早い地域とインバウンド復活に向けて取り組みを進めていければと考えている。来年の3月の拡張された国際線ターミナル完成のタイミングに具体的施策として実施できるかどうかは難しいが、出来る限り対応していきたい。</p>
委員	<p>まちづくりに関して意見を述べる。観光における受け入れには2030年の達成目標であるSDGsに関する知識などが必要になるので、2030年に16歳から22歳のこれから働く世代となる小学生に対して今から教育をする必要がある。</p> <p>また、「資料2：現行計画のあらすじと具体的施策の達成状況」について、具体的施策「12.スポーツウェルカム石垣島」の達成状況が4.0となっているが、そこまでの高評価なのは意外な印象を受ける。今回の東京オリンピックでは石垣島出身者を3名輩出したが、今後も石垣島の魅力をスポーツの側面を通じて発信できないか。</p>

事務局 (玻座真)	<p>第2次石垣市観光基本計画素案検討会で意見を伝え、何らかのプログラムを第2次石垣市観光基本計画にて盛り込めればと思う。ご意見をいただいたように小学生などの低年齢から観光に関して教育することは非常に重要なことだと認識している。スポーツを活かした観光振興策に関して今後も題材として検討を進める。</p>
委員	<p>8月31日にOCVB(沖縄コンベンションビューロー)主催の「観光危機管理に関する市町村勉強会」が実施されたが、石垣市からの参加はなかった。観光危機管理の面で沖縄県と上手く連携できているのかが気になる。観光危機管理の自然災害の台風は襲来日などを予測できるが、地震などは予測できない。</p> <p>被災下での目標として、来島いただいたお客様を一日でも早く地元に戻さないといけない。石垣島には島内だけではなく、竹富町などの他の島々からも観光客が集まるので、観光関連の民間企業や庁内の防災担当課との連携は必須であると考えている。</p>
事務局 (玻座真)	<p>観光危機管理に関して、現在はまっさらな状態である。しかし、台風襲来時や地震・津波等の災害を想定し、観光客を含めた利用者を離島ターミナル内から誘導する訓練などは現在も毎年実施をしている。今回策定する観光危機管理計画においては、現在の地域防災計画で既に取り扱われている事柄のうち観光客に該当する範囲に関してはこれから策定する危機管理計画において引き取る考えである。石垣市地域防災計画とのすり合わせをしっかりと行いながら取り組んでいきたい。また、竹富町の島々に観光に出かけている観光客も多数いることから、竹富町にもご協力をいただき、観光危機管理計画側の委員として世界遺産推進室には参加いただけるように調整を進めている。</p>
委員	<p>私自身、YVB(八重山ビジターズビューロー)の外部委員をしており、議論内でYVBの名前が出てこないのは残念に思う。連携体制としてYVBを核に、石垣市、竹富町、与那国町を含めて検討できればと思う。</p> <p>危機管理として、石垣では、例えば美崎町など、半グレの悪質な業者などが問題となっており、現実的に考え対処する必要があるが、今回の危機管理計画策定のどの段階で議論されるのかが説明からは見えなかった。例えば、委員に警察関係者を入れるなどが考えられるが、どのようにお考えなのか。</p>
事務局 (玻座真)	<p>八重山全体で考える必要があると意見をいただいたが、私たちもまったくその通りだと思っている。実際に会議の座組を考えると、行政としては石垣市、竹富町、与那国町、観光団体としては観光交流協会などの組織がそれぞれ市町に存在する。それを束ねる形でYVBがあるので、どのような形でYVBの方に関わっていただくのかを考える必要がある。今後検討会に入っていただくことになるので、その中で検討を重ねていければと思う。</p> <p>最近、レスポンスブルーツーリズムという概念も聞くようになったが、観光地である以上様々なお客様がいらっしゃる。中には、文化や暮らしなど地域の事情にあまり意を介さず、受入側が望ましくないと思う方もいる。コロナ前はいわゆる「半グレ」と呼ばれる人々が本市においても入ってきており社会問題化していた。現在は、コロナ禍による不景気の影響でどこかに行ってしまったのかもしれない。元々、美崎町の風紀をどのように守っていくのかが問題になっていた。それに関連して委員にお聞きしたい点は、観光基本計画において「半グレ」問題や望ましくない事業者に関する記載、そして</p>

それに起因する諸問題を記載する必要があると思うのだが、それらの問題を観光危機として捉えるべきなのかに関してご意見いただきたい。

委員 この問題は、観光基本計画と観光危機管理の両素案検討会にまたがる問題であるので、検討会間で共有する必要がある。したがって先ほど申し上げたように両検討会のコミュニケーションが必要になる。観光危機管理の一般的な考え方に犯罪は入ってくるが、警察も扱いづらいグレーゾーンの半グレを観光危機管理として取り扱ったケースは少ないように思う。この場ではどちらの計画で扱うのかは判断できないので、観光基本計画と観光危機管理計画の両計画にて扱いたいと思う。

先程、委員の発言でもあったが、まちづくりやSDGsを観光基本計画で扱い、目指すべき観光地としての方向性を地域の方とどのように形作ることができるのかといったことを推し進めていくことで、望ましくないマイナス面をまちづくりの一環として排除することができるのではないかとと思う。

事務局 (玻座真) まちづくりの観点から良い街づくりを形作る一つの方策としての観光基本計画の策定を進めていきたい。

委員 「資料1：石垣市観光の現状」の7、8頁に関して、アンケートサンプル数がかなり少なかったと記憶しているが、このデータをそのまま使っていいものかが疑問である。また、第2次石垣市観光基本計画は何年間の計画期間なのか。この先10年間の計画なのか、30年先を見据えた計画なのか。

事務局 (玻座真) 資料1はリピーターや満足度に関する記載の箇所の母数に対する質問なのか。

委員 2019年7月に調査は実施されたと記憶している。回答数がかなり少なく、回答が偏っていたと記憶している。

事務局 (玻座真) アンケート結果は事前に把握し目を通していたが、サンプル数などの詳しいデータに関して把握しておらず、申し訳ございません。今後調べて回答する。

計画年数はこれまでの計画も10年ということもあり、現時点での事務局案として10年を想定している。従来通り、10年先の将来像などを設定して計画をすすめていき、5年ごとに見直しをするのか、それとも昨今のコロナウイルスの影響なども踏まえて、3年ごとに見直すことが良いかなど、検討会の中で議論を重ねていきたいと思う。

#### 【実施風景】

